

# ドセタキセル 3週1回 投与療法の手引き



2020年2月改訂版

国立がん研究センター中央病院  
乳腺・腫瘍内科 薬剤部 看護部

# はじめに

乳がんの治療は手術、放射線などの局所的な治療の他に、再発やがんの進行を抑える目的で行うホルモン剤や抗がん剤などの薬による全身治療があります。

抗がん剤治療にはいろいろな治療法がありますが、ドセタキセル 3 週 1 回投与療法（以下ドセタキセル療法）は乳がんにおける代表的な治療法の一つです。

抗がん剤の副作用には個人差があって全ての人に同じように起こるものではありません。薬の種類によってもその特徴が大きく違います。

この小冊子にはドセタキセル療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。ドセタキセル療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処方法を知ることにより、外来通院で治療を続けながらより良い日常生活を送れるよう、ドセタキセル療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

# 方 法

《点滴に用いられる薬》：

以下の3本の点滴ボトルを順番に点滴します。

<u>ボトルの内容</u>	<u>点滴時間</u>
デキサメタゾン注（むくみ浮腫の予防）	約15分
ドセタキセル注（抗がん剤）	約60分
生理食塩液（点滴管内の抗がん剤を洗い流す）	約5分

《注射方法》：3週間ごとに（ ）サイクルの点滴を行います。

点滴にかかる時間は約80分です。

（点滴当日に採血を行い、データを確認いたします。）

《点滴後の内服薬》：



**デカドロン錠 4mg**



むくみの予防

朝夕食後に1錠ずつ 点滴当日夕食後より4回服用

ドセタキセル療法															
サイクル	1			2			3			4			...		
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	...	...	...
点滴	↓			↓			↓			↓			↓		
		休	休		休	休		休	休		休	休		休	休

## 注射名 : ドセタキセル



無色透明（実際の点滴パックは写真と異なることがあります。）

### ドセタキセル

ドセタキセルは、イチイ科の植物成分を原料として半合成された化合物です。細胞が分裂する際に必要な細胞構成成分の一つである微小管を安定化および過剰発現させることにより、がん細胞の増殖を阻害します。

このくすりの投与の副作用として、手足のむくみや胸やお腹への水分貯留が報告されています。この症状を予防するために、副腎皮質ホルモン（デキサメタゾン注）をあらかじめ投与します。

添加剤としてアルコールを含んでおりますので、アルコールに対しアレルギーのある方やお酒に弱い方は、お申し出下さい。



現在、他のくすりを服用されている方は事前に医師または医療スタッフにお知らせ下さい。

## 副作用とその対策



ドセタキセル療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度は個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

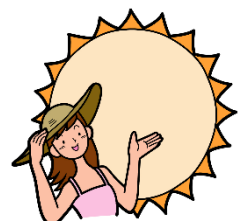
### **脱毛**

くすりを注射してから2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が抜けてきます。脱毛時に頭皮がピリピリと痛むことがあります。次第におさまります。この脱毛は一時的なもので、全ての注射を終了してから2～3ヶ月で回復し始めます。



**対策**： 髪の毛が回復してくるまでの間、医療用かつらやスカーフなどをご用意すると良いでしょう。またショートヘアーにするなど清潔さを保つことも大切です。

シャンプーは刺激の少ないものを使用しましょう。そして外出の際は直射日光を避けるため帽子をかぶると良いでしょう。



## むくみ(浮腫)

投与を重ねる毎に、顔や足にむくみ(浮腫)を

生じることがあります。一般的に5人に1人の割合で見られます。とくに手術を行った側の腕には術後のリンパ浮腫とあいまってむくみが出やすいようです。

むくみは体の中に余分な水分がたまっている状態です。このむくみは、投与が終了してから数ヶ月以内に回復していきます。また利尿剤を服用することで回復することもあります。

もしこの症状が現れた場合は以下の対策を参考にしてください。

**対策**：体をしめつけるような衣服やきつい靴等は避けましょう。長時間の立ち仕事は避け、むくんだ手足は高くして寝るとよいでしょう。塩分の多い食品(ベーコン、トマトジュース、ポテトチップスのようなスナック食品)などの摂りすぎには気をつけましょう。

症状によっては、専門施設でのマッサージを行うことをお勧めする場合があります。急に体重が増えたり、体を動かした際にひどく息切れを感じる場合にはご相談下さい。

## 爪の変化

爪が変色したり、時にははがれるなどの変化がみら

れることがあります。治療が終われば、多くの場合回復いたします。

爪は短く清潔に保ちましょう。爪がはがれる、浸出液が出る、爪周囲が赤くはれて痛みがあるなどの場合には、担当医にご相談下さい。



## 白血球減少

白血球は、体内へ細菌が入り込まないように守っている血液成分の1つです。一般的にくすりを注射してから1～2週間目に白血球の数が少なくなり、3～4週間目で回復してきます。

白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、発熱や感染を起こす可能性があります。感染症はひどくなると生命に危険を及ぼす可能性もあるので、白血球が減っている時期の感染の予防と感染をおこした場合の適切な対応が重要です。

扁桃炎・虫歯・歯槽膿漏・痔などがある方は、あらかじめ担当医へご相談下さい。

**対策**：感染症の予防のために、外出から帰宅した際には手洗いやうがいをしましょう。入浴やシャワーで、体を清潔に保ちましょう。つめは短く保ち、皮膚に傷をつくらないようにしましょう。



38℃以上の発熱時には感染が疑われますので、抗菌薬を内服するなどの対応が必要です。

一般的に、ドセタキセル療法の場合5人に1人程度の割合で発熱する方がいます。

発熱(38℃以上)や下痢などの症状が重なった時は、病院へ連絡して下さい。



## 下痢

くすりを注射して当日に起こる急性の下痢と2日目以降から出現してくる遅発性の下痢をおこすことがあります。下痢をおこす頻度は10人に3人程度の割合です。

**対策**： 脱水を防ぐために水分の摂取を心掛けて下さい。

下痢が続く場合には、腸内の粘膜が傷害されている可能性があるため牛乳や乳製品は飲まないようにしましょう。また食事は少量ずつ頻回に摂るようにすると良いでしょう。

止痢剤や整腸剤などで対応することも可能です。

水っぽい便、熱や腹痛をともなうひどい下痢が続く場合には、病院へ電話して下さい。

## 口内炎

くすりを注射してから一週間前後に起こすことがあります。10人に1人程度の割合で口に違和感を感じる方がいます。



**対策**： 予防のため、口の中を清潔にし、うるおいを保っておくことが重要です。歯ブラシはやわらかいものを使い、しっかりと歯と歯ぐきをブラッシングしましょう。刺激の強い食べ物や熱すぎる食べ物は避けて下さい。また口の中に痛みがある場合には、そこに触れないようにストローなどを使って水分を取るのも良いでしょう。

痛みが続き、食事や水分が取れない場合には、担当医に相談して下さい。





## アレルギー

アレルギーは、異物から自身を守るためのシステムが過剰に働いた際に起こります。アレルギーには、皮膚に湿疹が出来るような軽症のものから、血管が拡張し血圧が低下するような重篤なものまであります。

点滴中にじんま疹ができたり、顔がほてってきたりした場合、冷や汗が出て気分が悪くなったりした場合には、医療スタッフにお申し出下さい。

添加剤としてアルコールを含んでおりますので、アルコールに対しアレルギーのある方やお酒に弱い方は、お申し出下さい。



## 注射部位における皮膚障害

このくすりは、注射の際のわずかな漏れでも皮膚障害を起こすことがあります。



くすりを注射している間に、その注射部位が赤く腫れたり、痛みを感じる場合には、すぐに医療スタッフへお申し出下さい。

## 吐き気・嘔吐

ドセタキセル療法による吐き気や嘔吐

の症状が出ることは比較的少なく、一般的には軽度です。

しかしこの症状が現れた場合は以下の対策を参考にしてください。

### 対 策 :

吐き気止めの内服薬が処方されている場合は、指示どおりに服用してください。吐き気のコントロールがうまくいかない場合、次回診察時に工夫をします。吐き気の程度・吐いた回数・食事の摂取量・排便の状況を記録し、担当医に伝えて下さい。



食事が取れないときは、なるべく水分をとるよう心掛けましょう。(水・フルーツジュース・スポーツ飲料など)。また消化の良い食事を少量ずつ何回にも分けて取られるのも良いでしょう。



また口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にすることで予防することもできます。

趣味を楽しみ、気を紛らわすこともときに効果的です。



## 四肢への影響（関節痛・しびれ）

ドセタキセル療法の場合、足の関節・筋肉の痛みや脱力感を感じることがあります。多くの場合は、くすりを注射してから2～3日後に症状が現れ、数日以内におさまってきます。

また手足に正座をした後のようなしびれを感じる方がいます。この症状は、手袋と靴下の着用範囲に起こりやすいと言われていています。

もしこの症状が現れた場合は以下の対策を参考にしてください。



**対策**： しびれは、手袋と靴下の着用範囲に起こりやすいと言われていています。抗けいれん剤やビタミン剤などの投与により軽減することがあります。

関節の痛みには、痛み止めのくすりをを用いて症状の軽減をはかります。

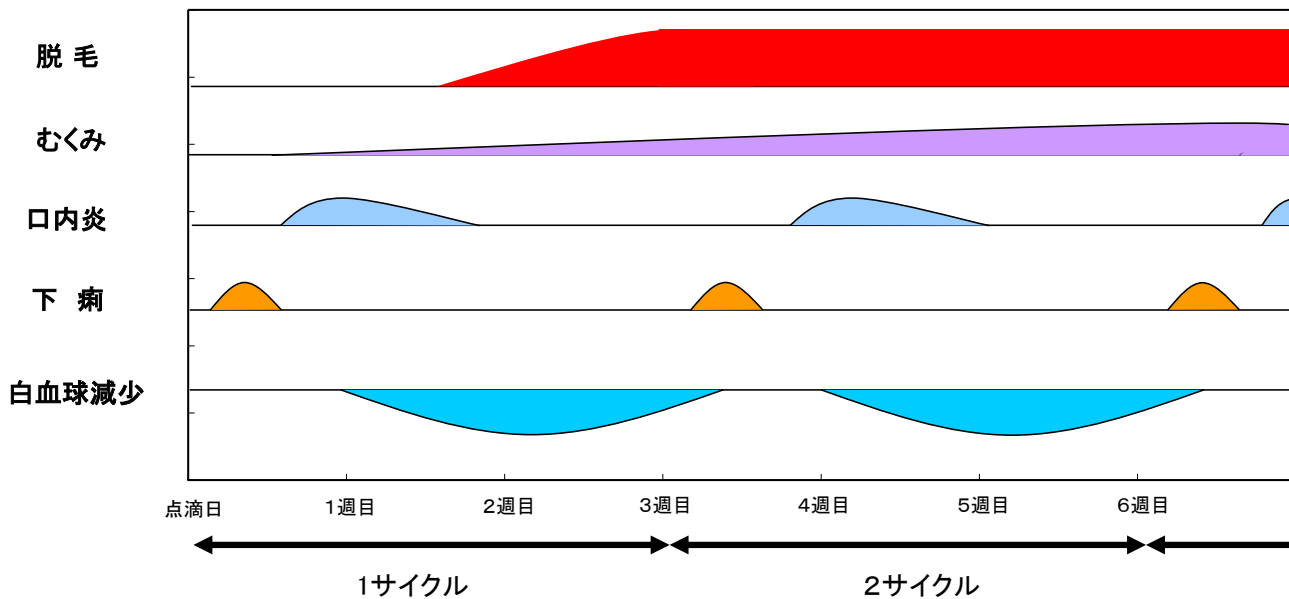


ボタンがかけづらい、物を落としやすい、つまずきやすいなど日常生活に支障がある場合は担当医にご相談下さい。

その他気になる症状がありましたら、医療スタッフへご相談下さい。

副作用種類

代表的な副作用発現時期



悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、

**アピアランス支援センター**までご相談ください。

※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです

MEMO : \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



監修 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

---

編集 薬剤部

編集協力 乳腺・腫瘍内科

看護部

撮影協力 フォトセンター



使用イラストはMPC刊「薬と予防イラスト集」「医療と健康イラスト集」より転載